

# デジタルドキュメント (5)

高久雅生

2014年5月15日(木)3・4時限

# 本日のお品書き

- (前回の復習)
- (前回講義での質問・要望への回答: 13件)
- 電子書籍
  - 事例とともに: 利用と閲覧環境、コンテンツ

# (前回の復習 = ふりかえり)

- 学術文献の様々な種別
  - Eブック、会議論文集、テクニカルレポート
- 電子書籍
  - 電子書籍とは何か?
  - 電子書籍の歴史とその意義
  - 電子書籍の閲覧環境
    - 閲覧機器、ビューア、コンテンツ

# 質問・要望へのお返事 (1)

- 休み時間に出席票を回すと、席をはずしているなどの理由で、出席票をもらいそこねるので、授業中に回すようにしてください。

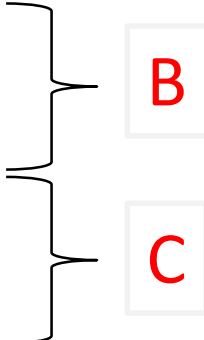
はい、休み時間には回さないようにします。始業時には着席するよう協力願います。

※メディアユニオン講義室では講義開始・終了の鐘が鳴らないので注意。

# 質問・要望へのお返事 (2)

- 評価の話を聞いて疑問となったのですが、AとA-の違いとA-の評価(AなのかBなのか)を教えてください。

評定基準では、「A-」は以下の通り、Bに相当します

- A+ ( $\geq 90$ )
  - A ( $\geq 80$ )
  - A- ( $\geq 75$ )
  - B ( $\geq 70$ )
  - B- ( $\geq 65$ )
  - C ( $\geq 60$ )
- 

# 質問・要望へのお返事 (3)

- 最初のフィードバックは丁寧でありがたいですが、もう少し絞ってもいいと思いました。
- 質問コーナー長すぎる。

できるだけ丁寧に進めたいので、フィードバックは一定の時間分を確保させてください。読めば分かりそうなところは、シンプルにスキップしていきたいと思っています。

# 質問・要望へのお返事 (4)

- レポートの返却を手渡しで行うのは時間がかかるので、他人に見られるとしても、時間のかからない返却方法のほうありがたいです。。。
- 時間がもったいないので、名前を読んでレポート返却するのはやめたほうが良いと思う。

難しいところですね。このほか、評定結果を表紙の裏に書くとか、別の方法も教えていただきました。良い方法があれば、教えてください。

# 質問・要望へのお返事 (5)

- スライド32ページの「モノとしてでなく、文化的な実践である」というのがなんとなく面白い考え方だと思ったのですが、よく分からなかったなので、もう少し先生の解釈など説明をお願いしたいです。

たとえば、出版という営みを定義することに近いと思います。先週まで話してきた学術雑誌というモノが、オンラインジャーナルの出現により、社会的な制度・慣習に変革を迫っていることを話したと思います。電子書籍やそれに伴う電子出版も、これと同様、社会制度や慣習という営みの上に成り立ってきた実践であり、これを言い換えているのではないかというのが私の解釈です。



# 質問・要望へのお返事 (6)

- ぜひ電子書籍を使ってみたいと思いました。おすすめを教えてください。

なんでも良いから、ひとつくらい見てみるのがよいように思います。

専用端末での大手のプラットフォームとしては、Amazon Kindle, 楽天Kobo, 紀伊国屋Kinoppyあたりから。または、iPad/iPhone系 or Andoroid系の汎用機向けのプラットフォームのほうが手に取りやすいでしょうか。

# 質問・要望へのお返事 (7)

- 電子書籍のプラットフォームはさまざまで、売っている書籍、売っていない書籍などがあり、どこで買うべきなのか迷う部分も、電子書籍の発展を妨げている一因となっている気がする。今後、プラットフォームが統一される可能性はあるのか？

ビジネスとしての電子書籍の課題は、指摘の通りと思います。ただ、2009年頃からの「電子書籍ブーム」によって、様々な乱立傾向はおおむね落ち着きつつあり、徐々に淘汰が始まっている現状ではないかと思います。問題は、今後も淘汰が進んでいき混乱が増す状況がありうることに懸念材料でしょう。

# 質問・要望へのお返事 (8)

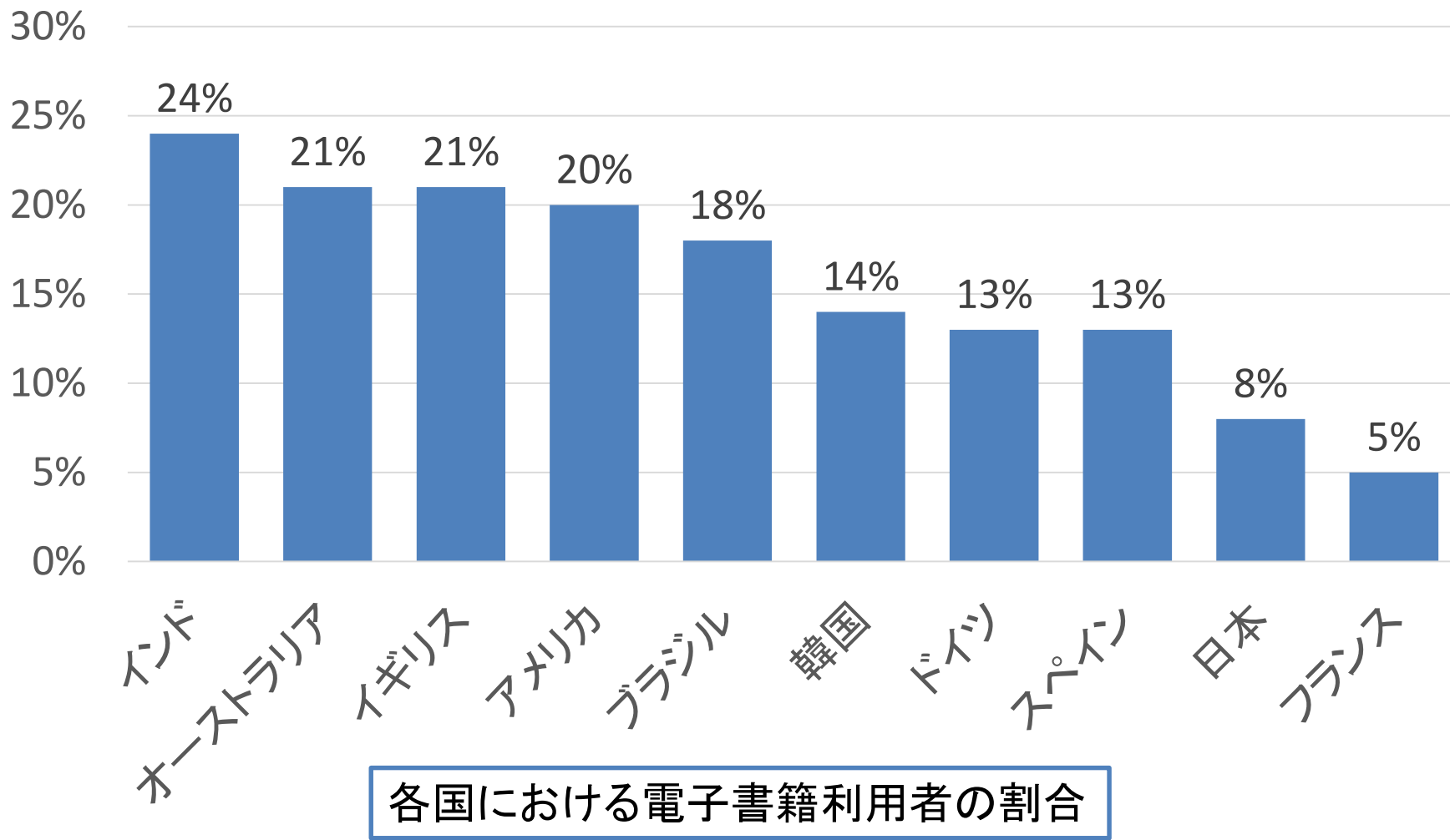
- アメリカの電子書籍の広がりグラフがありましたが、世界の電子書籍事情はどのようなものなのでしょうか。
- 日本や米国以外のほかの先進国ではどのくらい電子書籍が使われているのか気になりました。ぜんぜん流行っていないところとかありそうな気がします。

あまりまとまった調査が無いので比較は難しいですが、Bowker Market Researchによる2012年の10カ国調査が比較的ひろい範囲をカバーしているようです。

オーストラリア、ブラジル、フランス、ドイツ、インド、日本、韓国、スペイン、イギリス、アメリカの中で日本における電子書籍利用率は9番目との報告。

※2012年調査である点は差し引く必要アリ

# 質問・要望へのお返事 (8-1)



出典: <http://www.slideshare.net/bisg/kelly-gallagher-global-ebook-monitor>  
(Bowker Market Research, 2012)

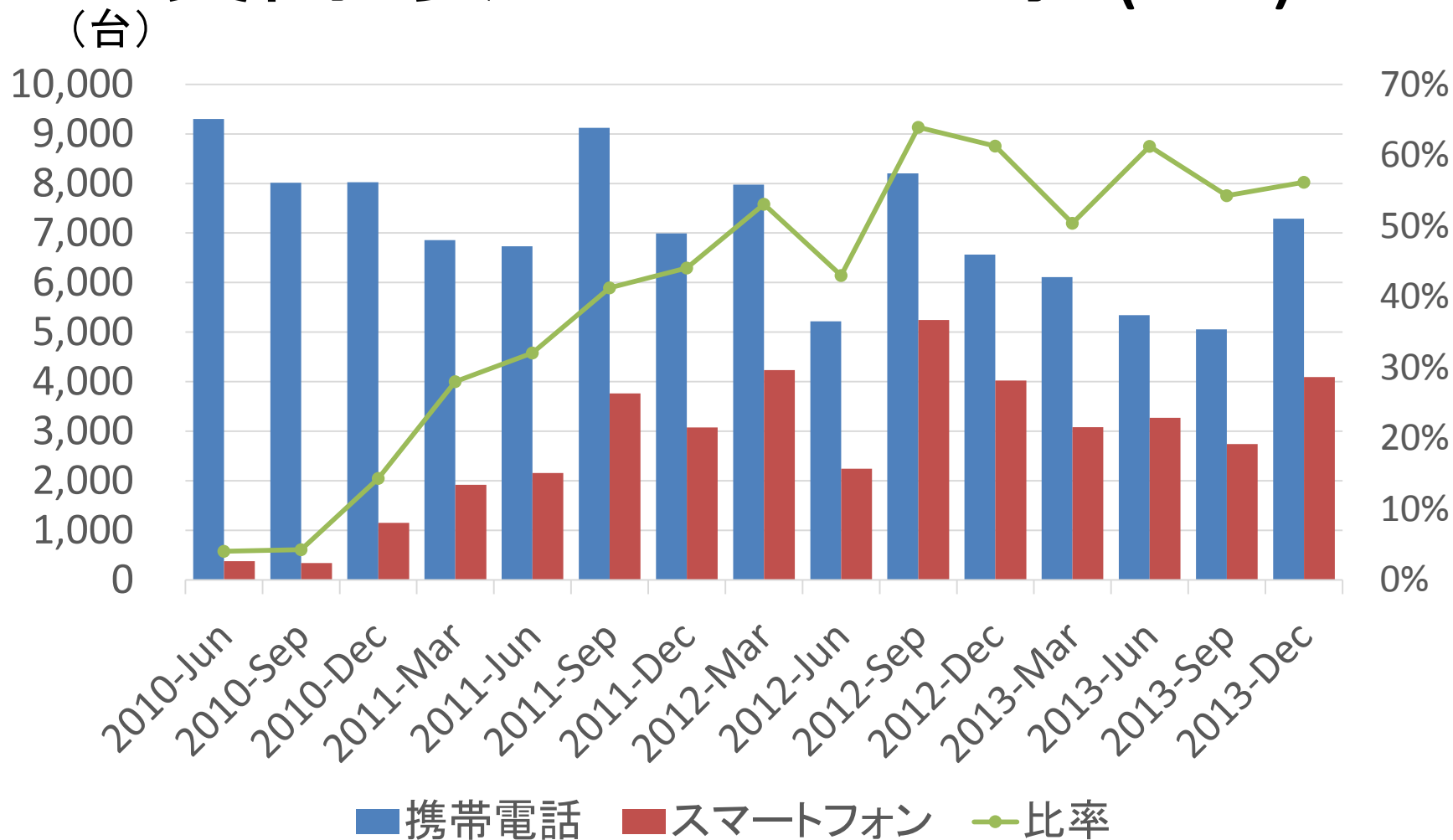
# 質問・要望へのお返事 (9)

- スライドの35ページについて、全体としては上昇の傾向にあるが、ケータイ向けやPC向けは減少の傾きがあるので、その原因は何か？ また、新プラットフォームが急増している具体的なものも何なのか気になりました。
- 35枚目のスライドのところで、スマートフォンやiPhoneは新プラットフォームに含まれるのでしょうか？
- スライド「電子書籍の広がり（日本における市場規模）」のグラフにおいて、2009年に出現して急激に上昇している新プラットフォームとはどのようなものか。PC向けやケータイ向けとどういうところが違うのか。
- 携帯向けの電子書籍の利用が落ちているのは、スマホやタブレットの普及、ガラケーの衰退が関係しているのでしょうか。

# 質問・要望へのお返事 (9-1)

- 前回資料における日本の電子書籍市場の内訳は以下の通りです：
  - 新プラットフォーム：
    - スマートフォンやタブレット等のアプリストアにおける電子書籍関連アプリ(ブック、教育、レファレンス)
    - スマートフォンやタブレット等のビューワアプリ経由で購入する電子書籍
    - Kindleやこれに類似する電子書籍配信サービス
    - PC・スマートフォン・電子ブックリーダーなど、マルチデバイスで閲覧可能な電子書籍配信サービス
    - PSPやNintendo DSなど、ゲーム機向け電子書籍配信サービス
  - ケータイ向け：
    - i-mode, Ezweb, Yahooケータイ等の公式コンテンツにおける電子書籍

# 質問・要望へのお返事 (9-2)



携帯電話市場における国内出荷台数、それに占めるスマートフォンの比率

出典: <http://www.jeita.or.jp/japanese/stat/cellular/2013/index.htm>  
(電子情報技術産業協会, 情報通信ネットワーク産業協会 調べ)

# 質問・要望へのお返事 (10-1)

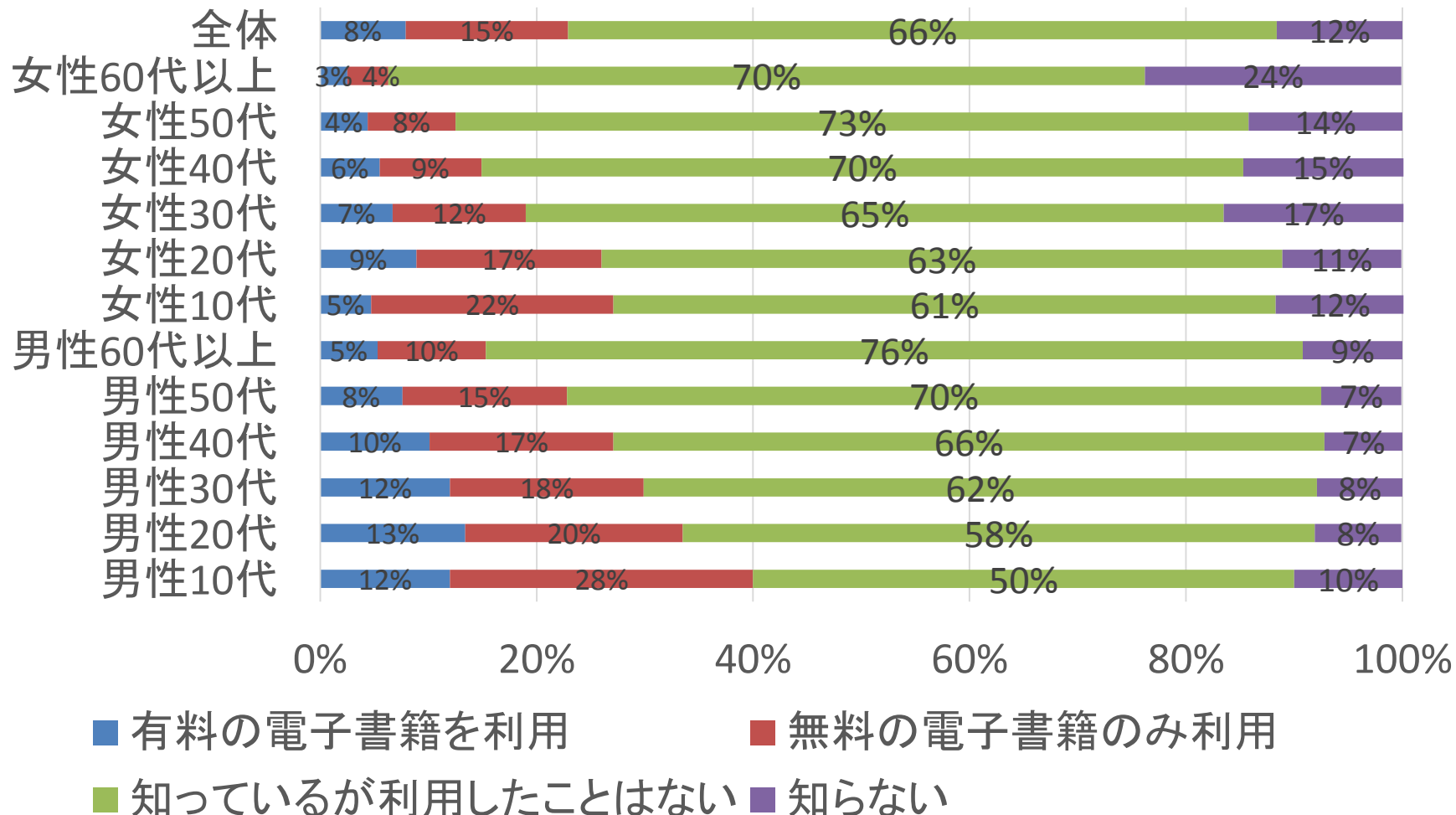
- 一般的な大学生は、電子書籍リーダー（あるいはアプリ）を持っているのかどうか、その割合が気になりました。

インターネットメディア総合研究所による調査(2013)によれば、若年層の電子書籍利用率は10代で8%, 20代で10.4%と高い傾向にある(次スライド参照)。

一方で、電子書籍端末の所有率は10代で1.6%, 20代でも3.4%と低い。



# 質問・要望へのお返事 (10-2)



年代別の電子書籍利用率(国内)

# 質問・要望へのお返事 (11)

- Mac版iBooksを使っているが、これがiPad, iPhoneだけでなく、AndoroidやWindowsでも使うことができれば、Kindleに勝てると思う。マルチプラットフォームにして、買った電子書籍を他の端末でも利用できるようにするべき。

指摘の通り、どのプラットフォームを選ぶか読者側の意識を含めて、マルチデバイス、課金のための決済プラットフォームなどを含むビジネス戦略は非常に重要になっていると思います。

# 質問・要望へのお返事 (12)

- 電子書籍の登場は必ずしも本の代替たりえませんが、印刷、出版業界に打撃を与えるには十分な力があります。そうした打撃で印刷、出版が衰退した結果として、書籍そのものが電子書籍にその役目を完全に渡す前に滅びてしまう恐れがあると思います。印刷や出版が生き残るための道として、何らかの模索は行われているのでしょうか。

状況がきわめて厳しいことは指摘の通りです。しかしながら、「出版」と「出版業界」は酷似していますが、別概念です。さらに、電子書籍登場以前より、この業界は瀕死の状況にありました。ビジネスモデル確立は業界の関心事かと思います。残念ながら特効薬はありません。

Ref. 破壊的イノベーション

# 質問・要望へのお返事 (13)

- これからさらに電子書籍が普及していくために、現在、3つの切り口のうち、どの切り口が不足していると思いますか？

日本国内に関しては、出版物全体に比して圧倒的にコンテンツの数が少ないという課題があると思います。

# 電子書籍 (2)

# 電子書籍の事例

- 電子辞書
- Kindle
- Kobo
- Sony Reader
- iPad / iPhone
- Andoroid
- 電子コミック
- PDF
- 青空文庫
- プロジェクト・グーテンベルグ
- 近代デジタルライブラリー

専用フォーマット

電子書籍端末  
(専用機)

専用ビューア

PDF / EPub

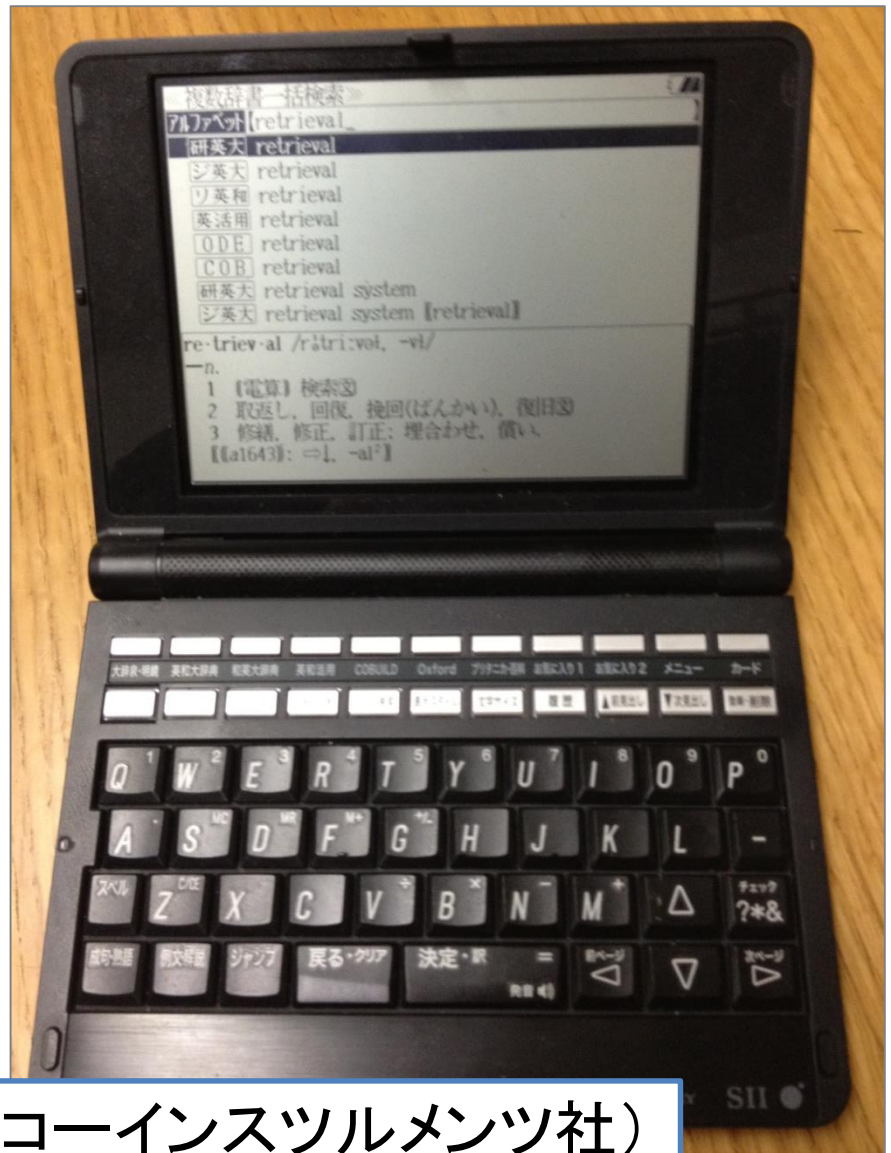
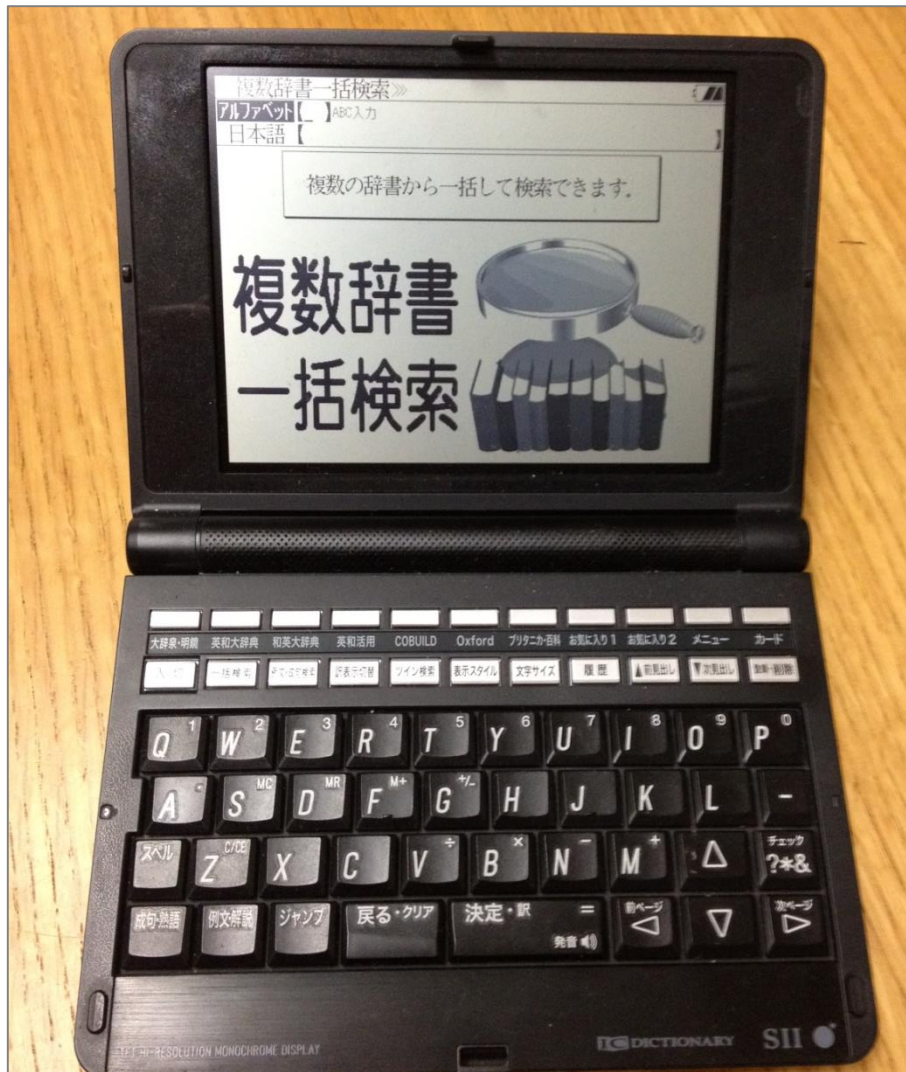
一般端末  
(汎用機)

ブラウザ

コンテンツ

Flash / HTML5

# 事例1: 電子辞書



SR-G10000(セイコーインスツルメンツ社)

# 事例1: 電子辞書 (2)

- 最も古典的な電子書籍の種別
  - データの構造化が行いやすく、検索しやすいという電子版の特長に適している
- 1990年代末に携帯版の電子辞書端末が普及
- 携帯型専用機+専用検索ツールによる閲覧環境
- 機能
  - キーボード配置
  - 串刺し検索
  - 辞書コンテンツの追加・入れ替え等は限定的
  - 音声・画像等も挿入可能

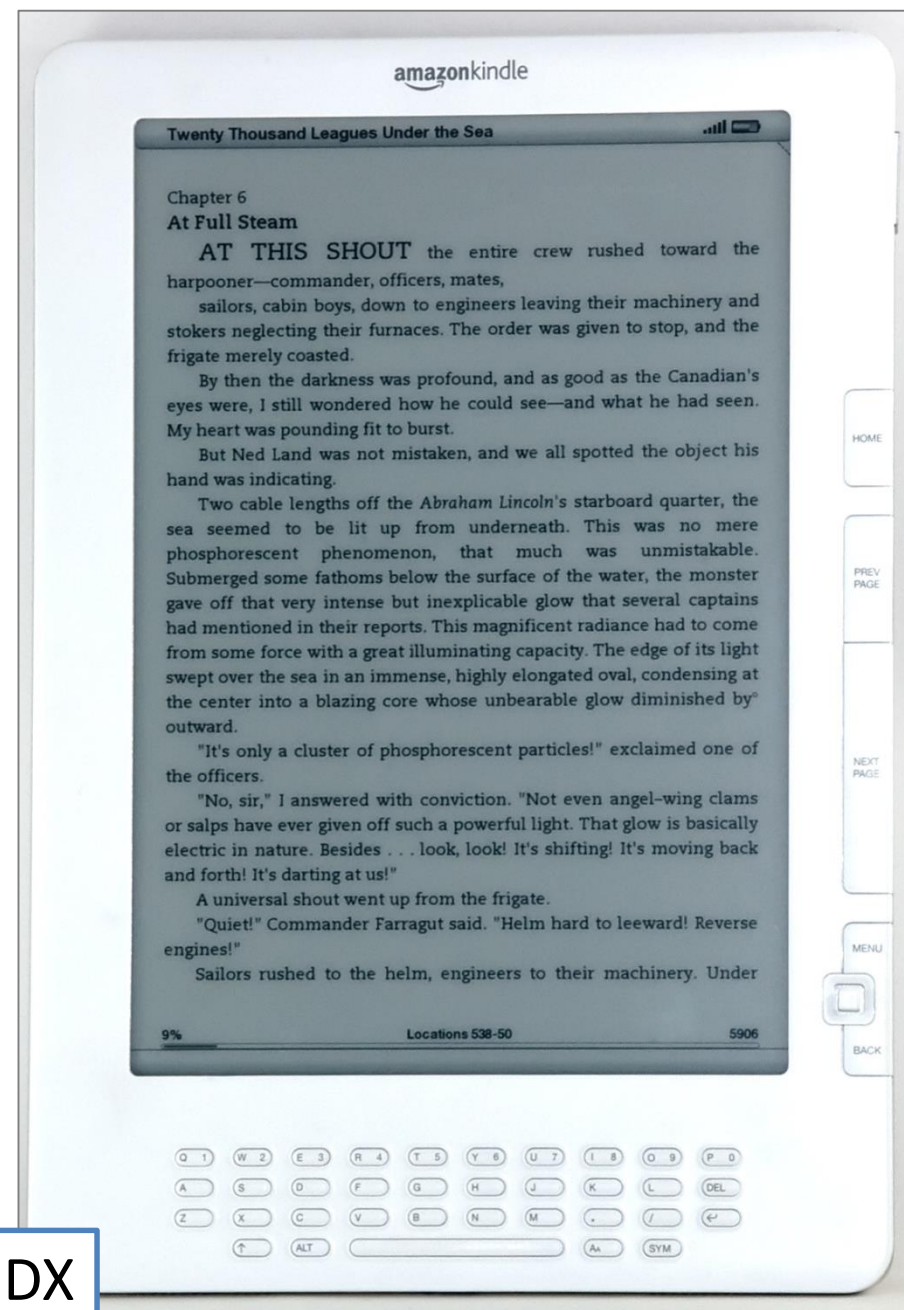


# 事例1: 電子辞書 (3)

- 歴史的に見ると、辞書コンテンツは単体での商品（CD-ROM等）から始まり、専用端末、ウェブコンテンツ（会員向けサイト、無料サイト）といったマルチチャネル型の展開が行われている。

# 事例2: Kindle

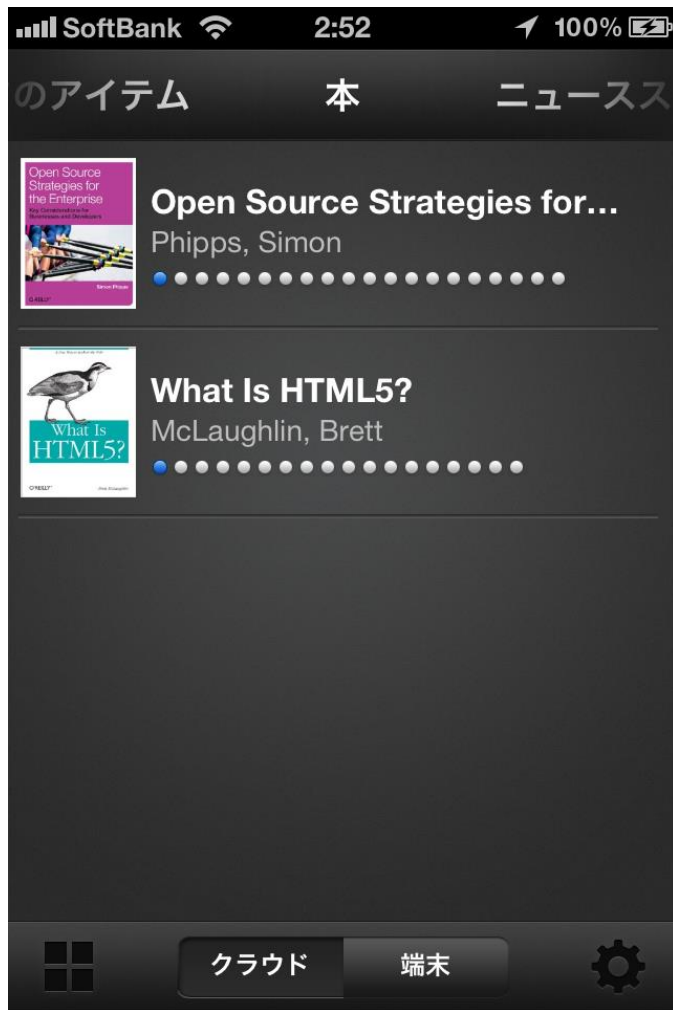
- アマゾン社によるオンライン書店連携型の電子書籍専用端末
- オンラインプラットフォーム連携型の端末として画期的な登場(2007年)
  - 電子ペーパーによる画面表示(Eインク)
  - データ通信機能内蔵
  - コンテンツのクラウド保存蓄積
  - オンライン書店を通じたシームレスな連携
  - 利用可能なコンテンツ
- 端末以外としてのKindleソフトウェアの提供も
  - iPad, PC - ブラウザ等
  - 端末間の同期



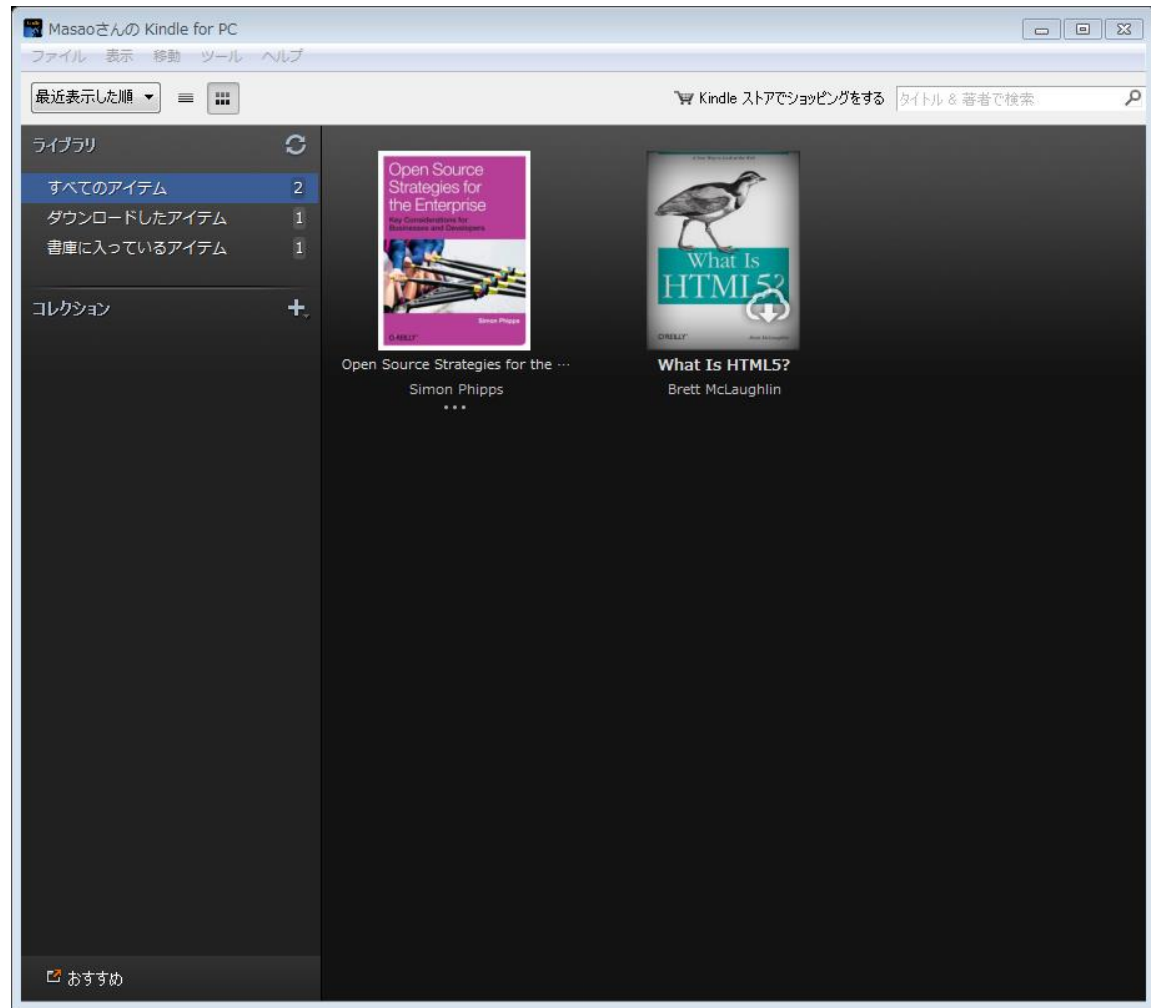
Kindle DX

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kindle\\_DX\\_Front.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kindle_DX_Front.jpg)

# 事例2: Kindle (2)

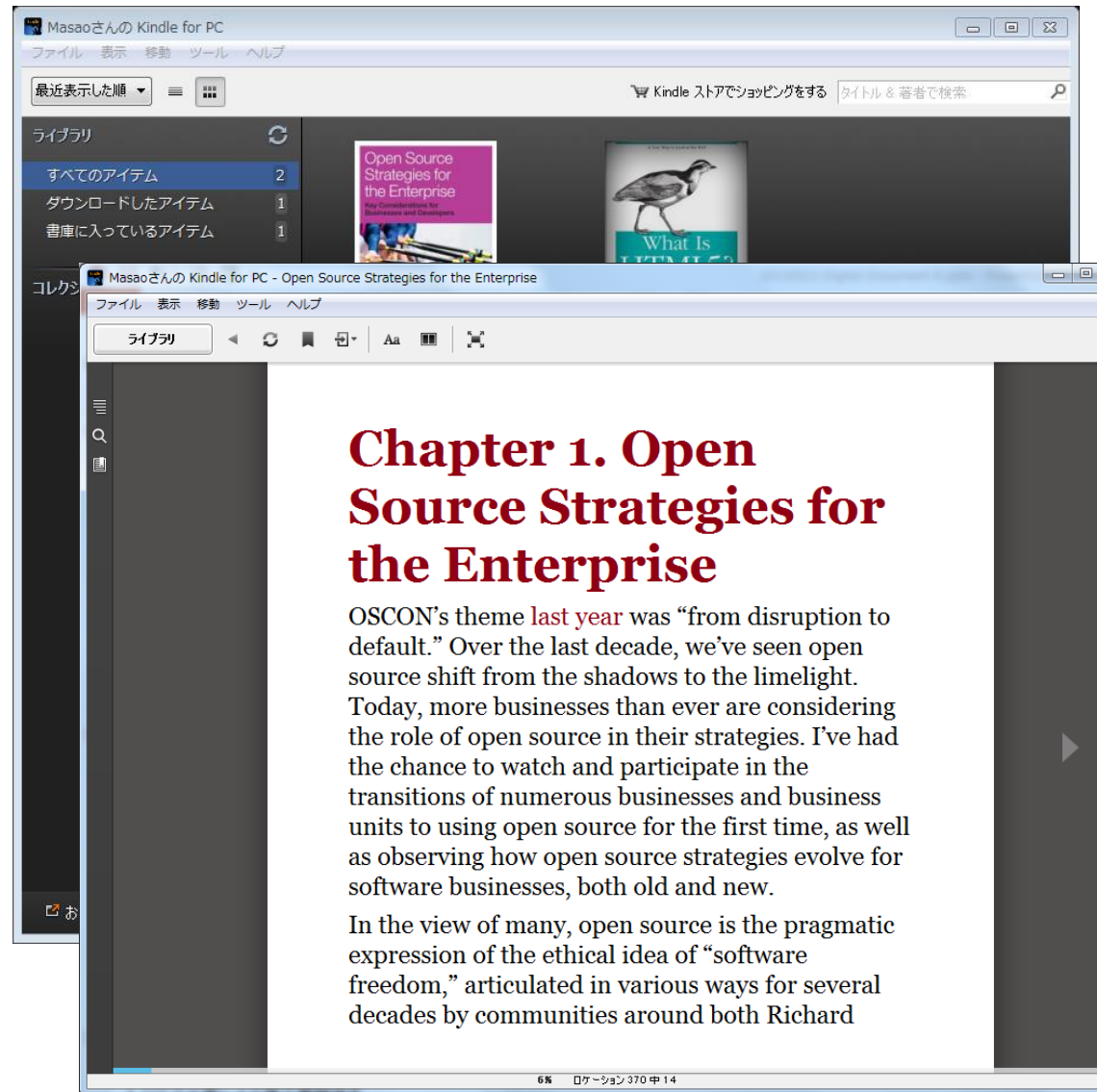


Kindle for iPhone



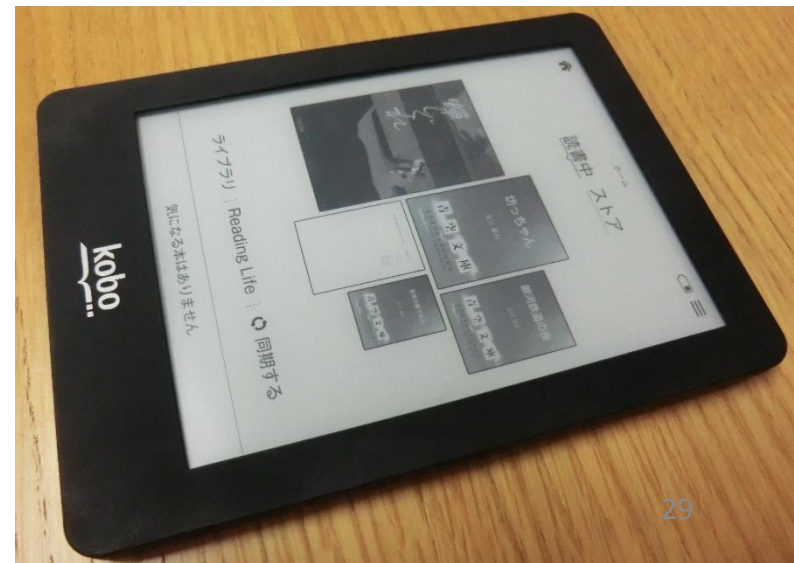
Kindle for PC

# 事例2: Kindle (3)



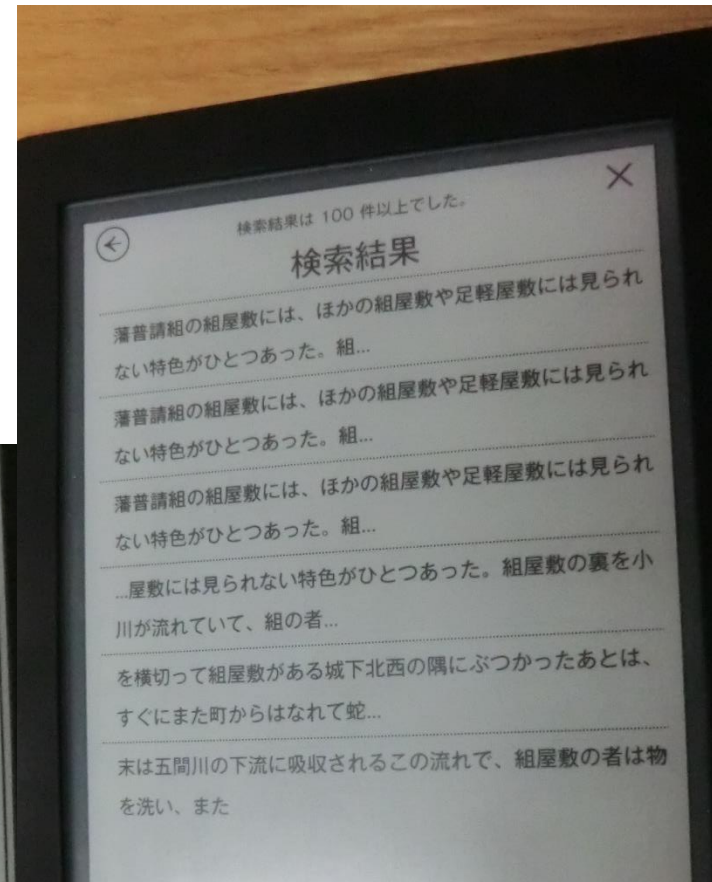
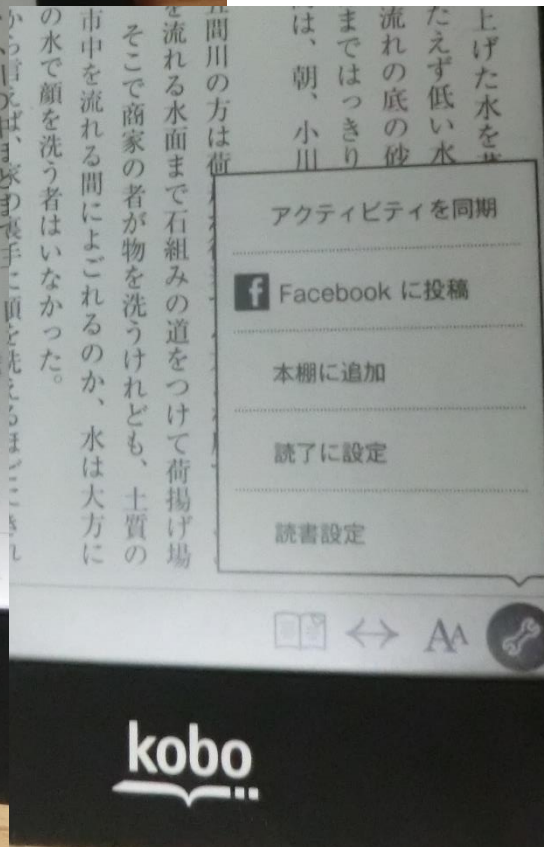
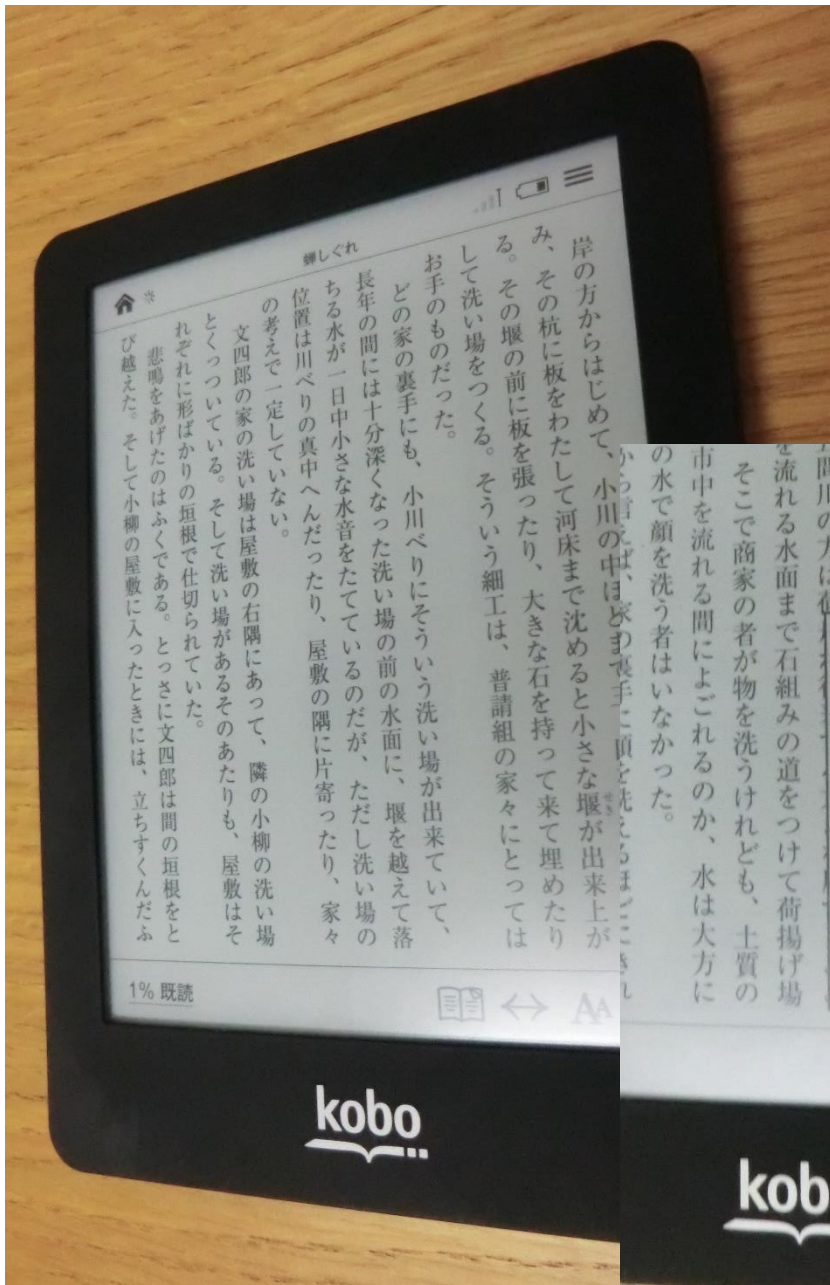
# 事例3: Kobo

- カナダ企業による電子書籍端末
  - 2012年に楽天が買収
- 楽天eブックストア連携による電子書籍
- 電子ペーパーによる画面表示(Eインク)
- コンテンツのクラウド保存蓄積
- データ通信機能
- 利用可能なコンテンツ
  - 約133,893点 (2013-05-16)





# 事例3: kobo (2)



# 事例3: kobo (3)

- <http://rakuten.kobobooks.com/>

The screenshot shows the Rakuten Kobo website interface. At the top, the logo "楽天 kobo" is displayed on the left, and navigation links "ホーム", "会員登録", and "ログイン" are on the right. Below the logo is a search bar with a "GO" button. A breadcrumb trail reads "楽天kobo > 楽天ブックス > 楽天市場". A teal navigation bar contains links for "電子ブック", "電子ブックリーダー", "無料アプリ", and "READING". Below this, a horizontal menu lists categories: "マンガング", "新刊・新書", "(小説 / コミック・漫画 / ビジネス / ラノベ)", "お役立ち情報", "ジャンル", and "基調の本". A promotional banner for "koboglo" highlights "文字サイズ自由自在" and "持ち運びにも便利". Another banner promotes the "kobo" app for iPhone/iPad, offering a "最大94%引き" discount. A three-step guide is shown: "Step 1 電子書籍を購入" (with a "購入する" button), "Step 2 読む端末を選ぶ" (listing Kindle, Kobo, and others), and "Step 3 読む". A large blue button on the right says "すぐログインして新しい読書生活をはじめましょう". Below the guide, a row of book covers is displayed, including "アスキー", "カゲロウプロジェクト", and others. The bottom of the page features a dark navigation bar with links like "よくある質問" and "お問い合わせ".

# 事例4: iPad / iPhone

- 「汎用」端末
- タブレット型端末の代表格
- iOS上にアプリを追加することにより、様々なサービスを利用できる
  - iBooks
  - Amazon Kindle
  - その他各種アプリ
  - <https://itunes.apple.com/jp/genre/ios-bukku/id6018>





# 事例5: 青空文庫

- 電子テキスト作成、公開プロジェクト
  - 1997年開設
  - 著作権切れの書籍テキストを有志ボランティアにより手入力
    - ※著作権法51条: 著作者の死後50年経過により著作権が消滅し、パブリックドメインとなる
  - 無料配布
  - HTML, テキスト形式による配布
- <http://www.aozora.gr.jp/>
- 収録作品数: 11,991 (2013年5月現在)
- ※米国における類似プロジェクト: Project Gutenberg (プロジェクトグーテンベルグ=1971年開始)
  - <http://www.gutenberg.org/>

青空  
文庫



著作権の保護期間  
延長に反対します

[メイン](#) [お知らせ](#) [掲示板](#) [別館](#) [資料](#) [運営](#) [リンク](#)

www.aozora.gr.jp 内を検索

Google

bing

Naver

Baidu

goo

## インターネットの電子図書館、青空文庫へようこそ。

初めての方はまず「[青空文庫早わかり](#)」をご覧ください。

### メインエリア

[青空文庫早わかり](#)

青空文庫の使い方と約束事を紹介しています。初めての方、ファイルやキャプチャーの取り扱いについて知りたい方も、こちらへどうぞ。

[総合インデックス](#)

作家名、作品名の50音別に、公開作品と入力・校正作業中の作品を一覧できるインデックスです。公開中の作品を探すときは、下の近道もご利用ください。

公開中 作家別:

[あ行](#) [か行](#) [さ行](#) [た行](#) [な行](#) [は行](#)  
[ま行](#) [や行](#) [ら行](#) [わ行](#) [他](#)

公開中 作品別:

<a href="#">あ</a>	<a href="#">か</a>	<a href="#">さ</a>	<a href="#">た</a>	<a href="#">な</a>	<a href="#">は</a>	<a href="#">ま</a>	<a href="#">や</a>	<a href="#">ら</a>	<a href="#">わ</a>
<a href="#">い</a>	<a href="#">き</a>	<a href="#">し</a>	<a href="#">ち</a>	<a href="#">に</a>	<a href="#">ひ</a>	<a href="#">み</a>		<a href="#">り</a>	<a href="#">を</a>
<a href="#">う</a>	<a href="#">く</a>	<a href="#">す</a>	<a href="#">つ</a>	<a href="#">ぬ</a>	<a href="#">ふ</a>	<a href="#">む</a>	<a href="#">ゆ</a>	<a href="#">る</a>	<a href="#">ん</a>
<a href="#">え</a>	<a href="#">け</a>	<a href="#">せ</a>	<a href="#">て</a>	<a href="#">ね</a>	<a href="#">へ</a>	<a href="#">め</a>		<a href="#">れ</a>	
<a href="#">お</a>	<a href="#">こ</a>	<a href="#">そ</a>	<a href="#">と</a>	<a href="#">の</a>	<a href="#">ほ</a>	<a href="#">も</a>	<a href="#">よ</a>	<a href="#">ろ</a>	<a href="#">他</a>

作業中:

[作家別・作品別](#)

[青空文庫 分野別リスト](#)

分野別に公開作品を一

<http://www.aozora.gr.jp/>

Web時代に本はどのように生きていくのか

# 事例6: 国立国会図書館デジタル化資料 (近代デジタルライブラリー)

- 国立国会図書館による電子図書館サービス
  - 蔵書の電子化保存、提供プロジェクト
  - スキャン画像による電子化(書誌情報 + 目次テキスト)
  - 2009年度補正予算による大規模電子化
    - -> 総額約126億円
    - 昭和43(1968)年までに受け入れた国立国会図書館蔵書を電子化
  - 著作権処理が済んだものからウェブ公開
  - 館内閲覧のみ資料
    - (今後、全国の公共図書館へのオンライン配信を予定)
- <http://dl.ndl.go.jp/>

# 国立国会図書館デジタル化資料

トップへ ヘルプ

## 羅生門

▶ 目次・巻号

▼ 書誌情報

サムネイル一覧

先頭

前

次

最終

コマ番号 2

/116

URL

印刷する

フルスクリーン表示

### 書誌情報

詳細レコード表示にする

タイトル

羅生門

著者

芥川竜之介 著

出版者

新潮社

出版年月日

大正12

公開範囲

インターネット公開(保護期間満了)

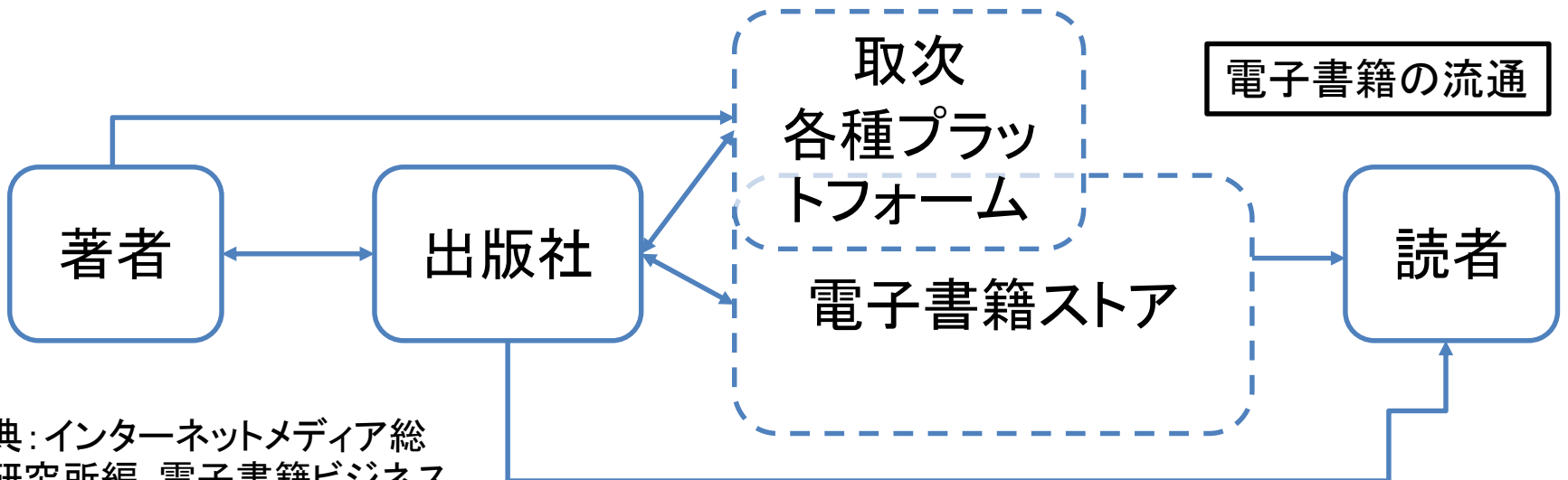
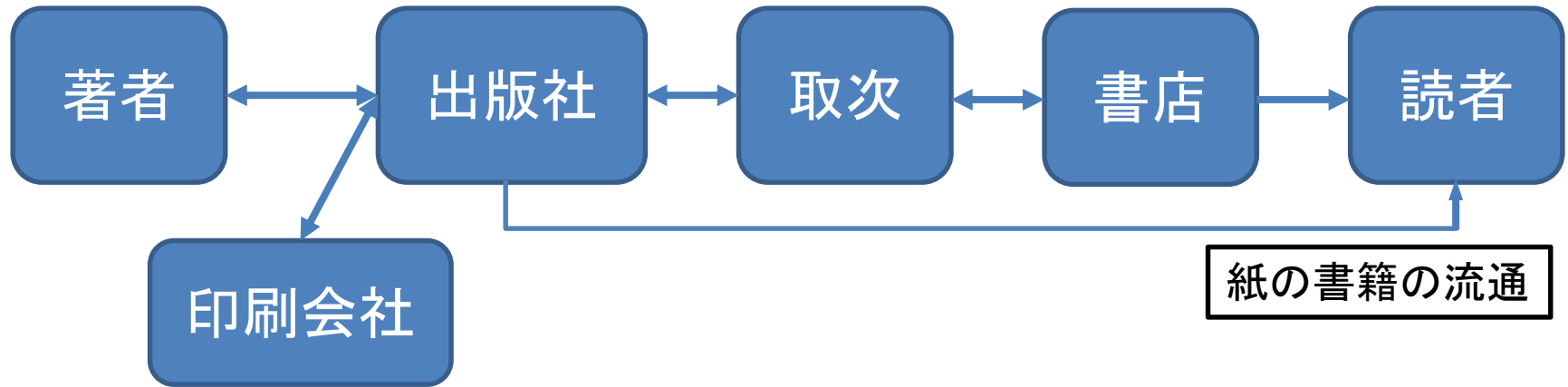
詳細レコード表示にする

🖨️ 📄 🔄 🔍 17% 概観図オン 表示領域設定 JPEG表示

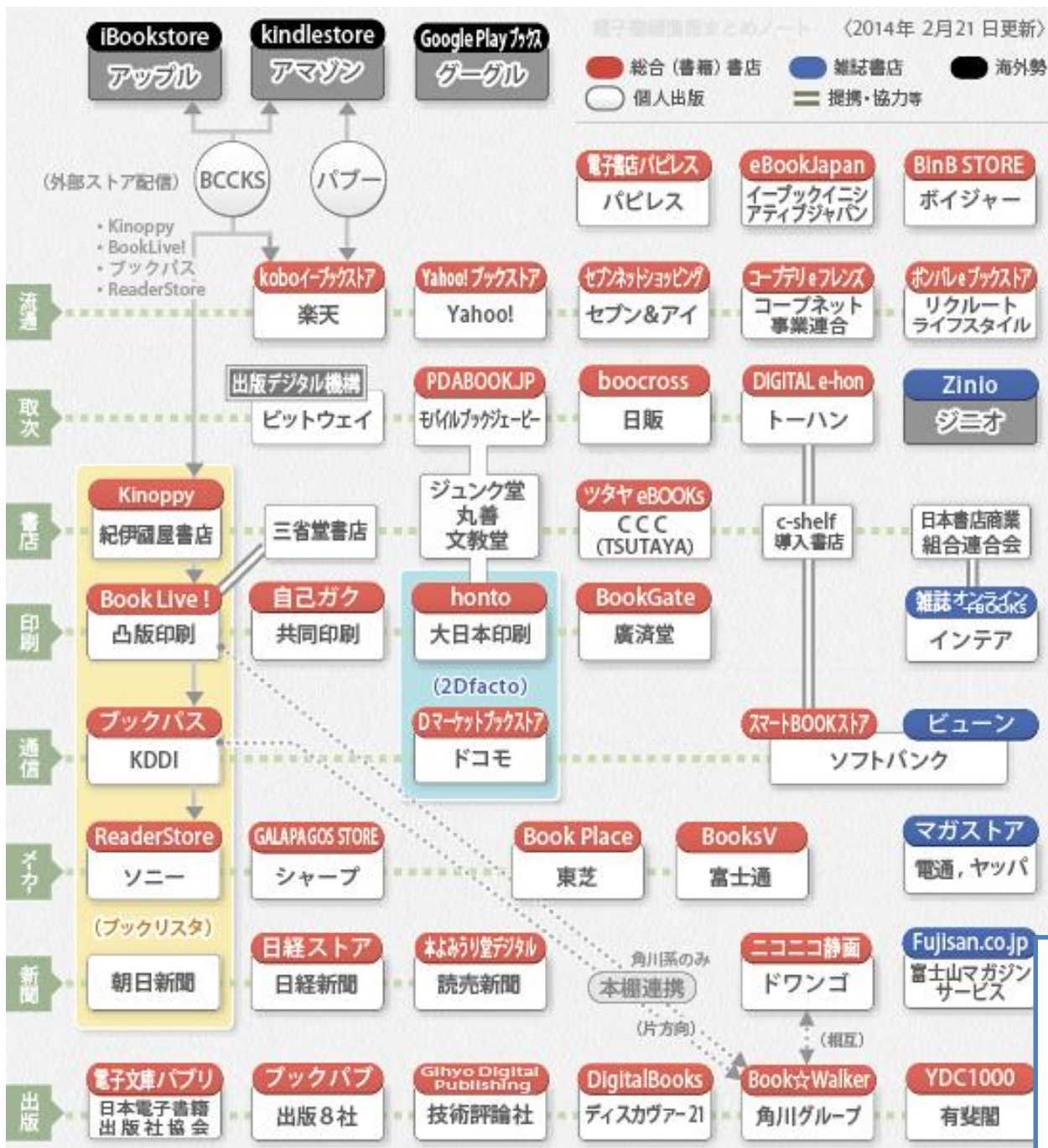


<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/969026>

# 電子出版の流れ



出典：インターネットメディア総合研究所編. 電子書籍ビジネス調査報告書. インプレスビジネスメディア, 2013, p.18-より改変



出典: 電子書籍情報まとめノート.  
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~yama88/pla.html>



## 作品を書店でさがす

キーワード『日本の男を喰い尽くすタガメ女の正体』に関連する電子書籍・電子コミックを下記の書店で検索します。

※配信開始日は各書店により異なります。また、書店によっては取り扱いのない作品もございます。あらかじめご了承ください。



(講談社電子書籍サイトにおける電子書店サイトへのリンク例)

<http://dbs.kodansha.co.jp/top.html>

# 電子書籍と紙の書籍の違い

## 紙の本

- 機器を用いずに読める
- 目が疲れにくい
- 持ち運びが簡単で、読むための時間や場所が限定されない
- ページ概念がある
- 文書の量が簡単に把握でき、好きなページを瞬時に開くことができる
- 書き込みやアンダーラインを引くことができる
- 書架に置いても背表紙で確認でき、読んだ本を空間配置できる
- 装丁や紙の手ざわりなど質感によって記憶に残る
- 著作権関係が簡明で、古本として転売しやすい

## 電子書籍

- 本文の検索ができる
- 最新の情報が入手できる
- 必要な情報だけ入手できる
- 文字情報だけでなく、音声、静止画、動画を収録することができる
- 引用や参考文献などにリンクすることができる
- 流通コストを低減し、価格を安くすることができる
- 大きなデータを搭載することができる
- 文字を拡大したり、音声読み上げソフトを利用することができる



# 電子書籍と紙の書籍の違い (2)

- 電子出版物の特徴

- デジタルコンテンツの複製物は複製元と同等で劣化しない
- 誰でも簡単にすばやく複製・加工が行える
- 誰でも簡単に著作物を創作し発信できる
- 流通が簡単になりコストが大幅に低減する
- 蓄積や保存が簡単でランニングコストが安い
- 著作物が有体物から離れ無体物として偏在する
- デジタル著作権管理技術の導入
- 再生装置が不可欠である

# 電子書籍、今後の課題

- 全文検索

- Amazonなか見！ 検索：

- <http://www.amazon.co.jp/b?ie=UTF8&node=15749671>

- Googleブックス：<http://books.google.co.jp/>

- Hathi Trust: <http://www.hathitrust.org/>

- 利用の広がりと著作権

- Googleブックス和解訴訟

- 著作権法改正：公共図書館への配信

- 図書館サービスにおける電子書籍貸出サービス

- 電子書籍の永続的保存

# まとめ

- 電子書籍の事例を確認しながら、それぞれの特徴を考えてみた
  - 電子書籍：端末、書店、コンテンツ、図書館サービス
- 電子書籍の特徴
- 電子書籍の課題
- 次回は、Webを中心とするハイパーテキストやドキュメントフォーマットについて考えてみたいと思います

# 第3回レポート課題

- 電子書籍を一点選び、読んでみることに。
- 読んだ電子書籍を具体例に即して文章で説明すること。その際、以下の各項目に関する説明を加えること。
  - 閲覧のための前提条件および閲覧環境
  - コンテンツの配信元、配信形態
  - ドキュメントのフォーマット(ファイル形式)
  - 電子書籍としてのコンテンツの特徴
  - 読んでみて気づいた点
- 取り上げた電子書籍の書誌事項を必ず記載すること。
  - SIST02準拠の形式を用いること

# 第3回レポート課題 (2)

- A4用紙1枚にまとめること(書式自由)
  - 2ページにわたる場合は裏面に記載のこと。
- 課題番号(第3回レポート課題)、提出年月日、学籍番号、所属、氏名を提出用紙の一番上に必ず記入すること
- 提出×切:2014年5月29日(授業時間にて提出を求めます)
  - 欠席等で当日に提出できない場合は、7D 208研究室前にレポート提出場所を用意するので、そちらに提出すること。

# 参考文献

- 野村総合研究所. 2015年の電子書籍：現状と未来を読む. 東洋経済新報社. 2011, 194p.
- 湯浅俊彦. 電子出版学入門：出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ. 改訂3版. 2013, 142p.
- 特集：電子書籍の未来. 情報処理. 2012, Vol.53, No.12, p.1254-1286.